



『予選での速さは見せられたが決勝は厳しい戦いに』



シリーズ名：2023 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名：2023 AUTOBACS SUPER GT Rd.7「AUTOPOLIS GT450km RACE」

レース距離：1周 4.674km×97周（453.3km）

10月14日（土）天候：曇り／路面：ドライ

10月15日（日）天候：曇り／路面：ドライ

10月14日（土）

公式予選：GT500 クラス 2位：1:31.604

九州唯一の SUPER GT 開催地オートポリス第7戦。
サクセスウェイトが半分になり、今年は未知の450km
レース。

全く予想が出来ない今年の予選。昨年は24号車が
ポールポジションと横浜ゴムとも相性の良いサーキット。
シリーズを考えるとポールポジションの1ポイントが
欲しいところ。19号車のウェイトは27kg。

曇り空の中、9時35分より公式練習が始まった。タイヤと路面とセットアップの確認を阪口選手が担
当し、ロングテストは国本選手が担当した。19号車は占有走行にて途中赤旗提示直前に国本選
手が出したタイムがトップとの差が0.352秒の3位（1:32.900）となり、好調さをアピールすること





が出来た。

予選開始時の気温／路面温度は 18 度／25 度。

Q1 のアタックドライバーは国本選手。

Q1 開始直後に 1 台、1 分後に 2 台が、残り 8 分となると更に数台がコースインする中、19 号車は残り 6 分半にコースイン。3 周周回の後、残り 1 分で 1 発アタックに入る。セクター 2 でカットラインから 0.551 秒上回ると、各車目まぐるしく順位が変わる中、フィニッシュラインをカットタイムより 0.760 秒上回る 1:32.132 を出し、暫定 3 位に食い込む。

のちに、2 台が 19 号車のタイムを上回るものの、ランキングの上位 3 台が Q1 突破出来ない厳しい闘いの中、5 位にて Q1 を突破する事となりました。

Q1 の結果は、37-14-39-100-19-16-38-17-
(以下 Q1 敗退) -3-8-24-36-1-23-64。

Q2 のアタックドライバーは阪口選手。

残り 7 分を切ったところでピットアウトした 19 号車は、Q1 と同様にじっくりとタイヤに熱を入れながら周回を重ねていく。テレメトリーブースで祈る坂東監督が大写しになる中、タイムアタックに入った 19 号車は直前にコースレコードを出した 16 号車に次いで暫定 2 番手となる 1:31.604 を叩き出す。その後、各車タイム更新される中、19 号車を上回るクルマは出ず、Q2 を 2 番手で通過する事となりました。

Q2 の結果は、16-19-39-14-37-17-38-100





予選コメント

【坂東監督】



『明日の決勝は 2 番手、フロントローでのスタートとなります。
素晴らしいチームワークでドライバーの 2 人が完璧な仕事をこなし、
2 番手を獲得出来ました。満足です。
明日必ず結果を出せるように皆様の応援、宜しくお願いいたします。』

【国本選手】



『予選 2 番手でした。想像以上の結果でとてもうれしいです。フリー走行の手ごたえからは予選では苦戦するかなと思っていたのですが、インターバルの間にクルマをいい方向に持ってこられたので、本当にチームに感謝しています。阪口選手も Q2 で本当にいいアタックをしてくださいました。（阪口選手も）フリー走行ではほとんどいい状況で走れなかったもので、すごく不安な部分はあったと思うんですけど、しっかりとまとめてすごくいいタイムを出してくれたので、本当にうれしい予選となりました。明日は二番手からいいレースをして、表彰台・優勝を目指してしっかり戦いたいと思います。』

【阪口選手】



『予選は二番手でフロントローを獲得することができました。フリー走行は路面が悪くてそこに合わせきれず、不安なフリー走行でしたが、そこから Q1 への読みが良く、国本さんがいいアタックをしてくれて Q1 を通過できました。そこからまた更にコンディションが良くなる方向への調整という部分で、チームも考えてくれたのでアタックの時のクルマのフィーリングはとても良く、フロントローを獲得できました。ちょっとトップは早すぎたんですけど、今日でいうと 2 位はベストなりザルトだったと思うので、結果には満足しています。明日は天候と路面温度を味方につけて一生懸命戦います。』



10 月 15 日 (日)

決勝：GT500 クラス 13 位

予選に引き続き曇り空の中、開催された第 7 戦
オートポリス。オートポリス初の 450km レース

(97 周) はとても難しいレースになった。昨日の予選では
2 位を獲得した 19 号車が表彰台のトップを目指し、
爆走を誓いスタートした。

レース前には、航空自衛隊の F15D 戦闘機 2 機による
ウェルカムフライトが行われ、レースに華を添えた。

決勝スタート前に行われたウォームアップ走行では
決勝に向けての最後のチェックに終始し、1:34.655 と
14 番手タイムとなった。

決勝スタート前の気温／路面温度／湿度は、17 度／
27 度／57%。スタート前からメインストレートを 1 コーナー
に向けて時折強い風が吹いており、天候も

レースが進むにつれ回復基調となっており、ますます作戦の
組み立てが難しくなっている。

スタートドライバーは国本選手。航空自衛隊吹奏楽部隊に
よる国家斉唱の後、大分県警の交通機動隊が先頭の
パレードランが 1 周、そして 1 周のフォーメーションラップを
経て、レースの火蓋が切られた。

スタート直後の 1 コーナーで 39 号車にインから
飛び込まれ、2 位の座を明け渡すと、ペースが上がらない
19 号車が後続を塞ぐ形となってしまう。

後ろの 17 号車からの激しいプレッシャーを受けるものの、
2 周目後半からペースが戻りつつあり、前の 39 号車を
追いかける展開となる。

6 周目の第 2 ヘアピンで 17 号車にアウトから刺されて
4 番手となると、7 周目、1 コーナーで 14、37 号車の

2 台にパスされると、2 コーナーで 38 号車にパスされ、その後一気にペースダウンした 19 号車は後続
に抜かれ 12 位まで落ちてしまう。すると、19 号車は 8 周目にピットイン、タイヤ交換を行い、暫定 14
位でコースに復帰した。

19 号車と同じ、10 周前後でピットに入るチームが出る中、12 周目で 19 号車は 11 位でトップとの
差が 1 分 11 秒。

14 周目の 1 コーナー入り口で 300 クラス同士の接触があり、車両回収のため FCY が出て、15 周
目に FCY が明け、直後にピットに入った車が出る中、16 周目の 19 号車は暫定 9 位となる。





周回を重ねていく中、気温と路面温度が 17/21 度とさらに厳しい状況となる。さらに時折吹く強い風がさらにレースコンディションを悪化させていく。

19 号車は 20 周目に後ろの 1 号車にパスされ 10 位となると 21 周目に 39 号車にパスされ 11 位に後退してしまう。さらに 23 周目には 100 号車にパスされ 12 位となると、24、64 号車にパスされて 14 番手まで落としてしまった。

27 周目に落下物回収のため一瞬 FCY ができるもの、直ぐに解除となりレース再開したが、程なく 28 周目に車両回収のため、再び FCY が出てしまう。30 周目に解除となるが、19 号車は 14 位のまま。

33 周目に 2 度目のピットインを行い、ドライバーは国本選手から阪口選手に交代し暫定 15 位でコースに復帰する。

レースは半分の 48 周目を迎え、19 号車はトップから 1 週遅れの 14 位。51 周目に 3 度目のピットインを行い 14 位のままコース復帰。

70 周目に 39 号車がリタイアした為、19 号車は 13 位に。後半は単独走行となったが、阪口選手はゴールまで車を無事に進め、13 位（2 ラップ遅れ）にてチェッカーを受けることとなりました。

レースは、ポールポジションの 16 号車がトップを独走していたが、後半、12 位スタートの 36 号車が順位を上げて 16 号車に肉薄すると、87 周目の第 2 ヘアピンでトップに躍り出ると、そのまま押さえてチェッカーを受けました。以下、16-3-38-1-17-37-14-100-23 - 64-24-19-39-8。

非常に難しいレースでした。

課題しか残らないレースでした。

沢山の応援ありがとうございました。

最終戦に向けて今から準備します。





決勝コメント

【坂東監督】



『応援してくださったファンの皆様本当にありがとうございました。

昨年とは全く違うレースでした。

路面温度に対して的確にタイヤを選びきれなかった自分の責任です。二人のドライバーが満足いく形でレースを行うことが出来ず申し訳ありませんでした。

もう少し暖かいと違った状況なのかもしれませんが課題しか残らないレースとなってしまいました。その中で二人のドライバーは耐えてチェッカーまでマシンを運んでくれた事に感謝致します。次は最終戦です。なんとしてもシリーズ上位で終わりたいので全力で今から取り組みます。』

【国本選手】



『非常に残念なレースになりました。

持ち込んだタイヤと路面がマッチせず、週末通してチームとヨコハマタイヤと共に対策を練っていましたが上手くいきませんでした。

今回の反省を活かせるように準備して茂木では優勝を目指していきます。』

【阪口選手】



『決勝 13 位でした。

3.4 スティントを担当しましたが、練習中から苦戦していたアンダーステアからフロントがグレーニング、その後ピックアップという症状に悩まされ続けました。路面温度が想定より低かったのが大きい理由ですがそこを改善することができずペースを維持できませんでした。この時期になると悔しいレースが増えてしまう印象ですが、苦手を克服していくこととはとても意義があることです。この短いインターバルで最善策を出し、最終戦勝つことを目指して頑張ります。』



SUPERGT

<https://supergt.net/pages>

BANDO

<http://www.bandohracing.com/>